

第 1 回 学校関係者評価委員会

1 実施日 令和元年 8 月 2 7 日 (火) 午後 4 時～ 5 時 3 0 分

2 会 場 校長室

3 参加者 学校関係者評価委員 山口 幸久(教育振興会会長) 中畠 義夫(教育振興会副会長)
小野 茂之(教育振興会副会長) 志村 勇(教育関係有識者)
清水 悟(百々育成会会長) 市川 孝嗣(主任児童委員)
山澤 浩二(保護者代表・PTA会長 学校関係者評価委員長)

学校側 笹本 仁(校長) 大原 千栄子(教頭)
田原 和仁(教務主任) (生徒指導主任)

4 学校側から提案された内容

(1) 教職員自己評価(教務主任) (2) 児童アンケート(生徒指導主任) (3) 保護者アンケート(教頭) についての解説や考察, 具体的な学校の様子を説明した。

5 協議された主な内容

学校側からの説明を受け, 学校関係者評価委員長が座長を務め, 座談会を行った。

※○……委員からの意見・感想 ☆……学校の考え

(1) 安全・安心について

【通学路について】

○通学路になる道の周りのブロック塀(上八田地区)が気になるが, 学校として対応を取っているか。

また, 地区としても家主に声をかけてはいるが, 空き家同然なので改善されない。

☆4 月 24 日に安全指導部を中心に通学路点検を行い, 市へ改善要望を提出したが, 上八田のブロック塀のことは上がってきていなかった。早速現地を視察し, 市へ報告, 改善要望を出していきたい。

○百々地区では育成会としてブロック塀の調査をして, PTAとは別に動いて対応している。

○地区の防災訓練等の行事を利用し地区(上八田)としてもお願いはしていく。それと同時に, 学校としても危険個所の認知と指導をお願いしたい。また, 行政への働きかけも合わせてお願いしたい。

○児童の登校時は, 出勤と重なり学校の周りの道を猛スピードで走る車が多く大変危険である。また, 春から夏にかけて果樹等の葉が茂り見通しが悪く危険である。

☆学校でもグリーンベルトの設置を含め市へ要望しているところである。

【集団登下校について】

○「集団下校のやり方が変わってよい」とは, どんな点が変更になったのか。

☆集団下校の回数を減らし, 集団下校の折は, 全校をコの字の隊形に整列させて一斉指導をしているので効率的かつ時間短縮につながった。また, 指導が徹底した。

【携帯・スマホの所持について】

○携帯やスマホを持っている児童が 3 1 %, 約 3 人に 1 人の割合になっているが, 家庭数や学年別の数

字は分かるか。また、スマホ等の使い方の指導をしているか。

☆家庭数は把握していないが、各学年別は各担任が把握している。使い方の指導は行ってはいないが、4月に全校で実施した防犯教室の中でラインメールを使用したことで起こったいじめのビデオを通して携帯スマホの危険性について学ぶことができた。また、学校には携帯電話等は持ってきてはいけないことになっている。

○携帯・スマホの所持率は上がっているが、ルールを作っていない家庭の割合も上がっている。ルールを作っていない家庭に対して、再度調査をして指導していくのか。再度アンケートを取ることは別にしても、結果を受けて現状を示し、今後の対応を考えていくことも大切になってくる。何か事件や事故に巻き込まれた時には、学校がそれを把握できるのは最終段階なので、学校が音頭を取って指導していくことが大切である。

☆まずは今回の結果を学校便りで各家庭に知らせていきたい。6年生だけでなく家庭にも注意を呼び掛けていきたい。また、大きな事件が起きてからでは遅いので、外部機関（NTT・KDDI等）の協力を得ながら学校体制として対応していこうと思う。

○PとしてもPTA会長が主導権を取り、動いて（講演会を開く等の活動）もいいと思う。

(2) 学習について

【家庭学習について】

○家庭学習はどのように行っているのか。

☆毎日1ページ行って学校に提出している。教師はその内容をチェックしてハンコを押して返している。教師の多忙化解消の観点からもあまり時間を取らずに内容をチェックできる体制を今年度から校内研究とも合わせて行っている。

○家庭学習はある程度子どもに任せてしまってもいいのではないか。どこまで学校で管理するかを決めて、後は子どもたちに決めさせ判断させることも必要であると思う。

(3) 生活について

【楽しい学校について】

○友達と仲良くし、楽しい学校であってほしい。これからも子どもたちに対して、目配り・気配りをお願いしたい。

(4) その他について

【学校応援団について】

○学校応援団の名簿はいつ作ったのか。また、もっと活用できないものか。

☆たくさんの方に学校応援団として名簿登録をしていただいている。名簿も毎年更新し、職員会議等で周知しているが、各教科の学習内容が多くなかなか活用しきれていない現状がある。

【25人学級について】

○長崎知事が提言している25人学級についてはどう考えるか。

☆25人学級は1学級の児童の人数が少なくなり、きめ細かに対応できる点ではよいと思うが、本校においては、特別支援の児童や問題を抱えている児童が多く在籍しているので、教員の人的な配置をお願いしたいと考えている。本校には、市の支援員が1名しかいない。問題を抱えている児童への対応が仕切れていない現状があるのできめ細か加配等をいただけるとありがたい。

【多忙化解消について】

○教員の多忙化が問題になっているが、多忙化解消に向けて、定時退勤日を決めているか。

○ワークライフバランスを守るために、始めは強制的にでも定時退勤日には定時で帰らせたり、仕事をスリム化させたり（仕事内容を削る等）する工夫が大切である。それを当たり前にして心を病む教員の数を減らしていけばと思う。

☆教師の自己評価もよくないので、これから取り組んでいかなければならない喫緊の課題の一つである。大変参考になるご意見をいただきありがたい。

6 全体評価

全体傾向を把握するため、[A：そう思う][B：ほぼそう思う]という評価を肯定的評価とし、それらの合計が80%を超えている場合は『満足できる状況』、[C：あまりそう思わない][D：そう思わない]という評価を否定的評価とし、それらの合計が20%を超えている場合は『改善の余地がある』と判断している。

(1) 教職員自己評価について

35問中33問において、肯定的評価80%を超えている状況から、満足できる状況にあると考えられる。改善の余地があると判断される内容は、「総合的な学習では、ねらいをふまえた活動計画を立て、実践している。」と「各教員が、多忙化解消に向け、意識した取り組みを実践している。」であった。これらについては、協議の中でも話題になり、原因を探り改善にむけて取り組むようにしていきたい。昨年度と同じ時期に80%を下回った「朝の学習（15分間）は、基礎学力の定着をめざしながら、効果的に実施している。」と「地域の人材や文化財・自然環境などを、積極的に教育活動に取り入れるよう努力している。」については、肯定的な評価になった。

(2) 児童アンケート評価について

11問中10問において、肯定的評価80%を超えている。昨年度に引き続き、改善の余地があると判断される内容は、「自分で考えたことを、進んで発表している。」である。「勉強がわかる」「しっかり聞く」は肯定的な評価を得ているが、校内研究とも合わせ、主体的に学習活動へ取り組み、発表などを通して、友だちと関わり合いながら学び、高めあう子どもを育てていきたい。

(3) 保護者アンケート評価について

20問中19問において、肯定的評価80%を超えている。満足できる状況と捉えることができる。改善の余地があると判断される内容は、昨年度に引き続き「子どもは、学習がわかり、基礎学力が身についている。」である。教職員自己評価や児童アンケートと関連した内容であり、この項目の肯定的評価の向上に向けて継続して努めていく必要がある。

(4) まとめ

各評価について、高い水準で肯定的に回答されていることは、本校の教育活動が安定して行われていると考えることができる。改善の余地があるとされる項目については、学習に関わる内容であることから努力すべき課題が明確になった。

7 今後の課題として意識されたこと

(1) 具体的な本校の課題としては、学力の向上と安全・環境への対応の2点である。これらのことが改善されるように研修等を行い教職員の指導力を向上させるとともに、保護者や外部機関と連携を図って対応していく。

(2) 保護者は、学校への期待がある。学校は、その期待に応え、保護者の信頼を得る教育活動を行い、家庭の教育力を生かしながら学校教育目標の実現に向けて努めていく。

8 特記事項

特になし

